

青少年教育・自己肯定感の向上・社会参加のための
映像作品制作ワークショップ事業

～映像・メディアを通して人と人をつなぐ～

NPO法人 湘南市民メディアネットワーク

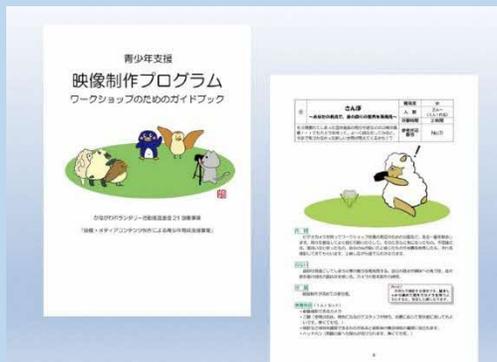
多様な青少年を対象に映像作品制作ワークショップを開催

- 辻堂青少年会館での「映像制作クラブ」(平成19年～)
- 不登校・ひきこもり等青少年支援団体での映像制作ワークショップ(平成21年～)
(平成21～26年度 ボランティア活動推進基金21協働事業「映像制作による青少年育成支援事業」として実施)
- 藤沢総合高校での授業「映像表現」(平成22年～)
- クラーク記念国際高校 横浜青葉キャンパス「メディア・パフォーマンスゼミ」(平成25年～)
- その他、小中学校、大学、児童養護施設、学童保育、教育機関 等でも開催

年に70～160回程開催 年間述べ1000～2800名程参加



個性や練度に合わせた
様々なプログラム



ファシリテーション

プロの作り方を教え込むのではなく
その子独自の発想や視点、作り方が
見出せるようにフォロー、促す。

「さんぽ」

～カメラを通して日常を再発見、多様な視点を伝え合う～



「コマ撮りアニメ」

～映像の原理を体感しながら自分の世界を表現～



「ドラマづくり」

～グループでコミュニケーションしながら、
個性を活かしあって共に作り上げる～



「地域やNPOのPR映像づくり」

～地域社会や多世代の人と関わりながらコラボレーション～



編集

～話し合い、試行錯誤しながら構成力や
メディアリテラシーが身に付く～



上映会



映像祭での作品上映



団体内や学校での上映会

- 参加者それぞれの視点・発想・想い・持ち味を認め合う・学び合う
- 自身(自分の視点)を対象化する、再発見する
- 作品を通じたコミュニケーションが生まれる
- 仲間たちや保護者の方、地域社会の方にとっても、青少年の新たな面を知る機会になる

→自己肯定感が高まる 他者との関わりの足掛かりとなる

参加者の声

児童養護施設の子(8歳)

アンケートに「こういうことをすると落ちつくことがわかった」と記していた。それはなぜか訊いてみると「毎日忙しいし、いつもと違うことができるってなかなかないでしょ。私、空想するのが好きで、いっぱいノートにお話かいたりしてたんだけど、あ、それやればいいって思ったの。それで、みんなにこんなのどう？っていったら、いいねって言ってくれて、やってみることになった」

青少年支援団体の子(10歳)

「はじめは全然しゃべらなかった子が、映画づくりを進めていくうちにどんどん話すようになって、最後は主役をやりたい！とってくれたときは本当にうれしかったです。もっといっぱいつくろう！いいものをつくろう！とってどんどんやりたい！が増えて、私も楽しくなっていくうちにみんなも楽しくなってきました。」

高校生(17歳)

「取材を通じて、普段は知り合えないNPO団体の方の話をじっくり聞けたり、自分の知らなかった世界や想いに触れることができてよかった。そしてそれをぜひ映像を通してもっとたくさんの人に伝えたいと思った。」

今後の展望

コロナ禍もあり、あらためて人と人を繋げていく機会が必要になっていく

障害のある子や、外国ルーツの子供たちの居場所や施設等でもワークショップを展開。

さらにそうした多様な子供たち同士や、多世代間で作品を発表しあったり、協同して映像作品制作を行えるような機会を作っていきたい。